

今日のトピック 米国の株式市場 (2016年7月) ニューヨーク (NY) 株式市場が史上最高値を更新

ポイント1 NY株式市場が史上最高値

■ 米国株式市場は、11日にS&P500種株価指数が史上最高値を更新し、12日には同指数に加えNYダウも史上最高値を更新しました。6月の米国雇用統計が大きく改善し、米国経済の先行きに対する期待が改めて高まりました。加えて、日本やアジアの株式市場が落ち着いてきた上、英国でも新首相が決定し、欧州での政治や経済の混乱が回避されるとの安心感が広がったことなどが背景と考えられます。

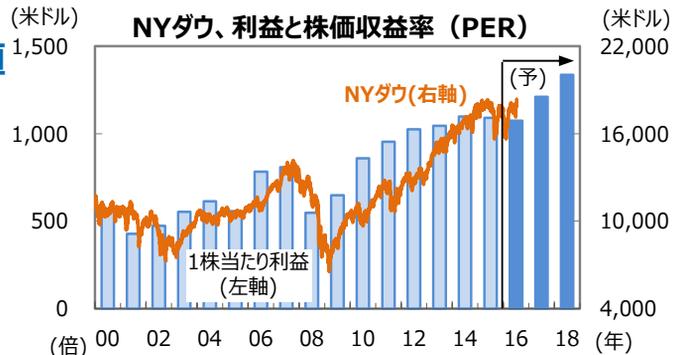
ポイント2 今後は企業業績に注目

■ 株価が堅調に推移する中、NYダウの株価収益率 (PER) は12日に17.08倍となりました。2000年から2015年までのPERの平均 (15.9倍) よりやや上振れており、今後は企業業績に注目が集まりそうです。

■ 2016年の1株当たり利益 (NYダウベース) は前年比で▲1.6%と減益の見通しです。しかし、17年は同+12.7%、18年は同+10.5%と2桁の増益が期待されています。引き続き米国の内需が堅調なこと、資源価格が下げ止まりつつあることなどから、今後は企業収益の改善が見込まれます。

今後の展開 上昇局面が続く可能性

■ 米国経済は緩やかな景気拡大が続く見通しです。こうした環境の中、産業構造の変化に注目が集まりそうです。過去も産業構造の変化が株式市場の長期上昇を支えました。今後は、ロボット化、人口知能 (AI) の活用などといった新たな技術が産業構造の変革を促進すると期待され、上昇局面を支えると考えられます。



(注)データの期間：1株当たり利益(NYダウベースの1株当たり純利益)は2000年～2018年。2016年以降の利益はBloomberg L.P.の予想。NYダウは2000年1月3日～2016年7月12日。NYダウのPERは2000年1月～2016年7月。月末値。2016年7月は12日。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

長期で見た「NYダウ」の推移(対数目盛)



(注)データ期間は1900年1月～2016年7月。月末値。2016年7月は12日。グラフ上の年月は、終値ベースで、各大台にはじめて到達した年月と、それぞれの台を下回らなくなった最初の年月を表示。対数目盛は、騰落率が等しい目盛になるように調整されたものです。長期の株価を見る場合などに用いられます。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2016年7月11日 米国の雇用統計 (2016年6月) 雇用は増加の勢いを回復
2016年7月 7日 米国のISM景況感指数 (2016年6月) 景気の順調な拡大を示唆

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。